

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
平成 29 年度 第 3 回相談支援部会 会議録

日時 平成 29 年 11 月 1 日 (水) 10 : 05 ~ 11 : 35

場所 乙訓保健所 講堂

出席者 12 名

乙訓障がい者基幹相談支援センター、長岡京市障がい者地域生活支援センター「キャンパス」、乙訓ひまわり園、相談支援事業所・地域活動支援センターアンサンブル、向日市社協障がい者地域生活支援センター、乙訓ポニーの学校、大山崎町社会福祉協議会、京都府立向日が丘支援学校、京家連乙訓やよい会、乙訓の障害者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉室、長岡京市障がい福祉課、

欠席者 3 名

こらぼねっと京都自立支援センター、向日市障がい者支援課、大山崎町福祉課

事務局 2 名

傍聴者 2 名

配布資料 ・次第

・平成 29 年度 相談支援部会・基幹相談支援センター共催の研修会について (案)

議事の流れ

(部会長)

- ・おはようございます。第 3 回相談支援部会をはじめます。
- ・今日の項目は、一つ目が共催する研修会について、二つ目が基幹相談支援センターからの困難事例の紹介、とその他です。この困難事例の紹介のところでお詫びがあります。

(副部会長)

・部会として本来前もってお伝えしないとイケなかったのですが、今日の部会は公開としていたのですが、困難事例の紹介になりましたら非公開にさせていただきます。個人が特定される紹介にはならないよう気をつけていますが、現在動いているケースもあり、傍聴の方も来ていただいています。了承いただきたく思います。先週問い合わせがあって「公開です」とお伝えしてしまったのですが、後半部分になりましたら非公開とさせていただきます。

1 共催する研修会の開催について

(部会長)

- ・では、研修会についてご説明します。

(副部長)

- ・相談支援部会と基幹相談支援センター共催の研修会についてお伝えします。
- ・目的は、障がい者福祉の第一線で相談業務等に従事する職員を対象として広範囲な知識を身につけ当事者とその家族の支援に寄与するとしています。
- ・日時は、平成30年1月19日金曜日10時から、これは12時までになっていますが11時45分に訂正をお願いします。
- ・会場は乙訓保健所2階講堂です。
- ・対象は乙訓圏域の相談支援事業所並びに事業所の職員及び関係者の方です。
- ・演題に対しては後で説明します。
- ・講師の先生ですが、華頂短期大学幼児教育学科教授武田康晴先生にお願いしました。武田先生はこの圏域に詳しくこの地域にあった講演をしていただけたと思います。
- ・講演内容ですが、前回みなさんからグループワークを取り入れてほしいとのご意見がありましたので、講義の他にグループワークでケースの支援の検討や支援者間の情報交換や交流も行いたいと思います。
- ・内容に関しては京都府のアドバイザー事業を利用して武田先生に相談しました。10月17日に華頂短期大学に行き話をしたのですが問題が多く具体的に決まらず、昨日10月31日に再度集まって武田先生と話し合いやっと決まりました。演題は、「きめ細かい支援について考える、その支援一人で悩んでいませんか」になりました。
- ・ケースを担当した時に本人中心のことを考えてアセスメントを行い進めていくのですが、困難事例の場合、相談支援専門員自身が混乱してどれがどう問題なのかわからずこちらが整理することが多いので、どうやって整理するのかがわかれば良いと思います。その方法を先生に提示していただきます。方法がわかれば解決にもつながりやすくなりますし、相談員自身のスキルアップになります。
- ・例年この研修は1日ですが午前中の半日にしました。2時間弱で話と演習も入れてまとめるのは大変ですが、グループワークの検討事例は先生が効果的に話しあえるものを用意して下さると思います。

(部長)

- ・ご質問やご意見ございますか。

(委員)

- ・そのテーマの内容を聞かせて欲しい。精神障がいに関する内容に出会うことがないので関係がある講演になったらいいと思います。

(副部長)

- ・今回は基本的なことで、さまざまな問題が来た時に必要となる課題整理、現状分析などと思います。

(委員)

- ・問題にはもちろんならないと思うのですが、私も相談員としてやっている中で「精神障がいも一緒」といってもいつも除外されている感じがあるのでできたらと思います。

(部長)

- ・研修を受ける対象にすべての範囲の方がなっているので事例の選定がどうなるかまだわかりません。これからの検討になりますが、当日そうならない場合もありますのでご了承いただけたらと思います。ご意見は前回からも聞いていますので配慮させていただきます。

(委員)

・お願いします。

(部会長)

・みなさんからの意見をできるだけ入れた形でやりたいと武田先生に相談しました。先生から焦点を絞らないと何がなんだか分からない研修になるとアドバイスをいただき今回こういう形になりました。今回で終わりではないことも踏まえて考えて行けたらと思っています。

(委員)

・盛りだくさんですが時間配分としては大丈夫ですか。

(副部会長)

・それが悩ましいところです。講演、グループワーク、まとめの発表。2時間弱でこれだけできるのか。基本的にどんな課題がきても解決につながりやすい整理ができるスキルをあげようという研修になりました。

・先日受けた研修では事例に対して課題を出し合い、どんな問題があるのかわからないところがいっぱい出てきました。その整理をそこでもされたので課題の分析が大事だと思います。今回色々な問題に対応できる力ということでこの課題分析のことを先生から言っていただきました。

(部会長)

・この研修は誰のためにするかということと利用者のためというのはぶれていません。解決しない課題があった時に相談員一人でかかえていることも想定しています。一人だと解決の視点も狭まります。では、3人の相談員がいる事業所であれば共有していますかと。共有の手段として武田先生から一つのシートを使ってみたらどうだろうという提案を最初の30分でしてもらって予定になっています。それでも解決できない場合は他の相談機関に相談することになると思います。そういうまとめになって利用者の幸せな暮らしにつながるということが最終の落としどころになります。研修の要素は、整理の方法の手段を考え相談員と事業所のスキルの向上を目指すこと、グループワークを通して顔の見える関係を築き連携のできる体制をつくることになります。

(副部会長)

・例年のようにワールドカフェ方式で顔見知りを増やす形ではなく、先生から教えてもらったツールを使って一つのグループで課題整理の方法を学ぶというスキルアップの研修がメインとなっています。

(副部会長)

・どんな課題でも最初にアセスメントする時にそのシートに落としてこんでいけば視点がぶれず解決が早くなると思います。そういうスキルが上がることは利用者に戻っていくということでまとまりました。

(部会長)

・対象が関係者となっていますが？

(副部会長)

・自立支援協議会の関係者のことですね。

(部会長)

・これを整理しておいた方がいいかもしれませんね。

(副部会長)

・前年度はどうでしたか。

(副部会長)

・参加は OK でみなさん来ていただいていたのですがグループワークになりましたら家族の方はご自身の判断で帰られていました。

(部会長)

- ・聞いてはいけないという内容ではなく大丈夫ですね。
- ・当日の準備等のお手伝いはどうですか。

(副部会長)

- ・会場は最初からグループワークの設定にしておくので5人ぐらいいれば30分で十分出来ると思います。片付けはみなさんにご協力いただいてすばやくできると思います。
- ・それとグループワークの時のファシリテーターもお願いします。

(部会長)

- ・ファシリテーターに関しては説明がいます。部会長、副部会長と奥田委員、井上委員、石田委員、松尾委員、伊藤委員にお願いしたいと思います。打合せは別途ご案内します。
- ・全体を通して他何かありますか。

(委員)

- ・保健所からのお願いですが、車が他のイベントなどあれば満杯になってしまう可能性があるのですが、できる方は電車等公共交通機関や乗り合わせて来ていただけたらと思います。

(部会長)

- ・ちらしにそういう文言を一言入れましょう。

(副部会長)

- ・ちらしは11月中ぐらいにみなさんの手元に届けば予定が調整できますか。

(副部会長)

- ・ちらし作成はお任せいただくか一旦できあがったものをみなさんに回して確認いただくか。

(部会長)

- ・では、案をメールで見えていただいてもしご意見がなければそのまま任せていただいてよろしいでしょうか。
- ・研修会の件はよろしいでしょうか。

3 その他

(部会長)

- ・では、次の議題2番は事例の紹介ですが、冒頭申しましたように個人情報なので傍聴の方にはご遠慮いただきたいので、3番その他を先にとと思いますがいかがですか。

(GM)

- ・福祉計画への提案ですが9月25日に市町村の担当者にメールで送りました。特徴的なのは、提出元が部会長で宛名はなくしたことです。宛名はなくしたのですが具体的には行政担当者を前提としているということで上にきっちりあげてくださいとお願いしました。
- ・9月26日に長岡京市の委員会がありました。提案の中身は読んただければということで、特徴的なこととして「おわりに」の部分に人材育成と啓発活動が大きな課題となっていることを入れているとコメントしました。福祉計画は基本的に障害福祉事業に対する計画で、例えばヘルパーを3年間でこま

で増やしますという目標値を決めて3年後にふり返るというものなので本来このようなことは書く必要がありません。でも、どんな事業をするにもまずは人がいないと実行が難しいだろうという主旨で付け加えていると言わせてもらいました。座長の武田先生に福祉計画の進行をチェックすることは自立支援協議会の主旨に沿っていると褒めいただきました。またグループホームに関して、オーナー方式で一棟アパートを建ててもらってそれを法人が全部借り受け家賃も払ってグループホームにすることが、乙訓ではないですが、京都市内では進んでいると話されていました。ただそれを進めるには障がい者理解・啓発が重要であると紹介がありました。

・10月18日に大山崎町の計画委員会がありました。ここでは私はお願いしてなかったのですが福祉計画への提案そのものを全委員に配っていただきました。同じようなコメントをさせていただきますと人材確保の話題になりました。提案に「特養の一部を居住施設に」とかいているのですが「このようなアイデアがあるのだ」と委員長の桃山学院大学の先生からコメントがありました。

・提案が計画にどのように反映されるかわかりませんがかなり意識していただけたと思います。あと向日市が11月の22日に予定されています。

(部会長)

・ありがとうございます。この提案はみなさんからご意見いただいて作ったものなので市町村にしっかり伝わっているということが確認できたので今後に期待したいと思います。

2 基幹相談支援センターが扱っている困難事例の紹介

～非公開～

次回 1月24日(水) 13:30～ 保健所にて